

牛肉の需給予測について

1 出荷頭数・生産量

出荷頭数の予測は、品種毎に出荷までの平均的な飼養期間を遡った出生頭数を牛個体識別情報から抽出し、算出している。なお、1日当たり出荷頭数ベースの前年同期比は、と畜場稼働日数を加味して、算出している。また、生産量の予測は、上記の出荷予測頭数に、平均枝肉重量等を乗じて算出している。

この結果、

- 生産量は、4月は、全品種で出荷頭数の増加が見込まれることから、前年同月をかなりの程度上回ると予測する。5月も、全品種で出荷頭数の増加が見込まれることから、前年同月をやや上回ると予測する。
- 3カ月平均（3～5月）では、出荷頭数、生産量ともに前年同期をやや上回ると予測する。

（千頭、千トン）

	出荷頭数		生産量
令和5年3月（見込み）	94.3 (103.9%)	[103.9%]	29.9 (104.9%)
4月（予測）	97.9 (105.3%)	[105.2%]	31.6 (106.3%)
5月（予測）	87.7 (104.2%)	[102.3%]	28.2 (105.4%)
3～5月平均	93.3 (104.5%)	[103.8%]	29.9 (105.5%)

注：（ ）は前年同期比、以下全ての表において同じ。[]は1日当たり出荷頭数ベースの前年同期比。

（参考）品種別の出荷頭数

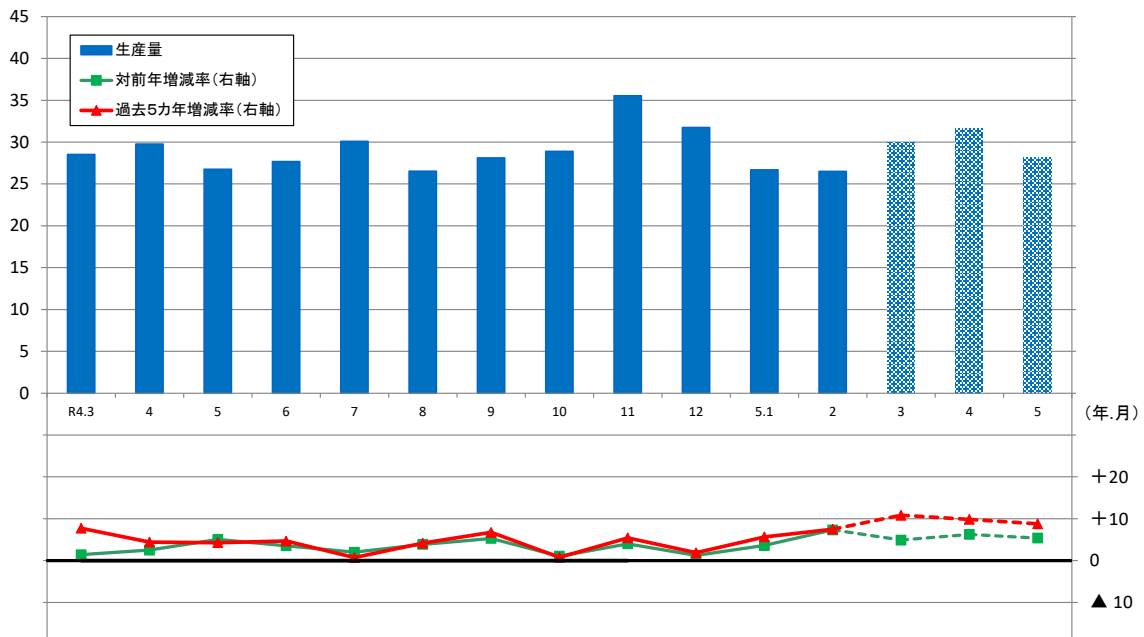
（千頭）

	和牛	交雑種	乳用種
令和5年3月（見込み）	40.3 (101.9%)	23.0 (114.8%)	29.4 (100.0%)
4月（予測）	44.3 (103.2%)	24.1 (112.8%)	28.1 (103.7%)
5月（予測）	38.4 (102.9%)	21.7 (110.3%)	26.3 (102.2%)

生産量の予測

（千トン）

（%）



注：網掛け、点線部分は予測値

2 輸入量

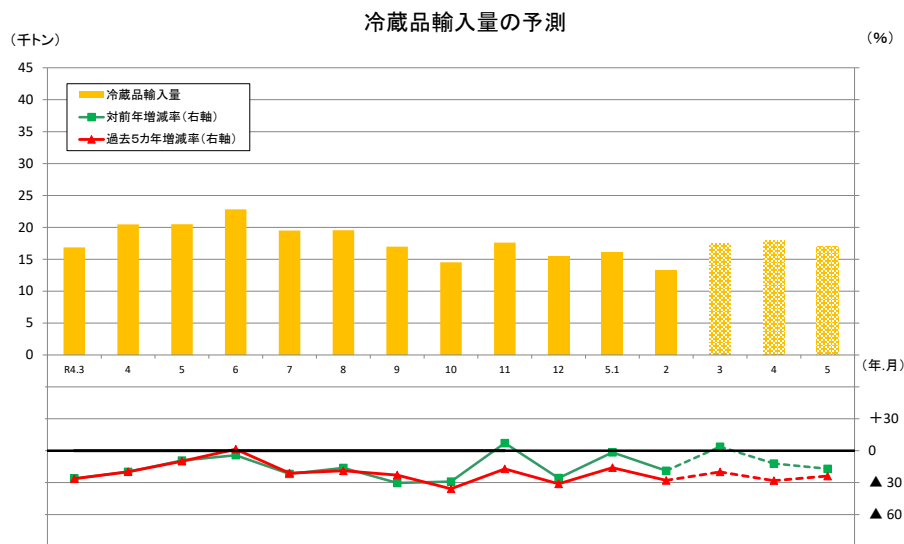
輸入量の予測は、国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会における輸入数量の検討結果を予測値としている。

この結果、

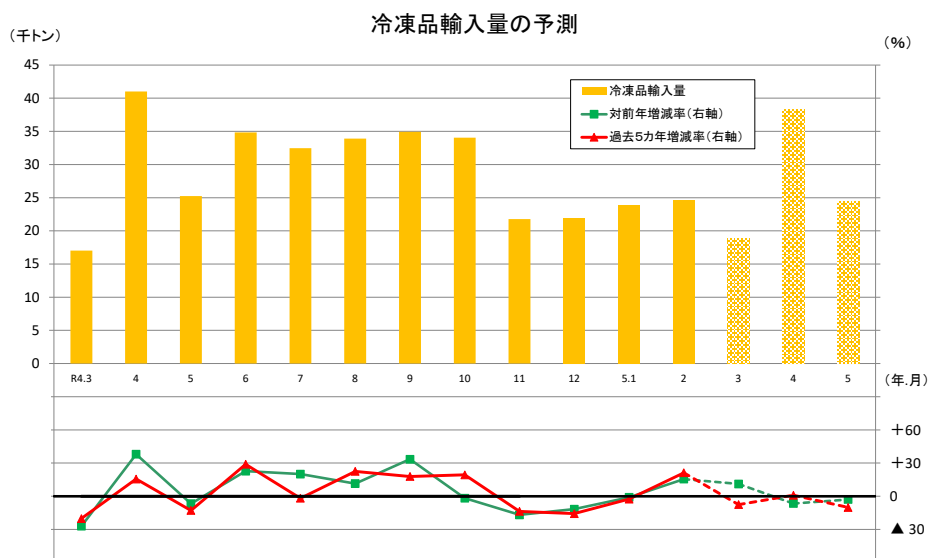
- 冷蔵品輸入量は、米国産輸入量が現地価格の高騰等により少ないこと等から、4月はかなり大きく、5月は大幅に、いずれも前年同月を下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をかなりの程度下回ると予測する。
- 冷凍品輸入量は、4月は、豪州産輸入量がオファー価格の高止まり等により少ない他、前年同月のメキシコを含むその他の国からの輸入量が多いこと等から、前年同月をかなりの程度下回ると予測する。5月は、豪州産、米国産などの主要国の輸入量は前年同月並みか上回るものの、メキシコを含むその他の国からの輸入量が前年同月を大幅に下回ること等から、前年同月をやや下回ると予測する。なお、3カ月平均でも、前年同期をわずかに下回ると予測する。

(千トン)

	冷蔵品	冷凍品	合計
令和5年3月(見込み)	17.5 (103.8%)	18.9 (111.1%)	36.4 (107.3%)
4月(予測)	18.0 (87.9%)	38.3 (93.4%)	56.3 (91.5%)
5月(予測)	17.0 (83.0%)	24.5 (97.0%)	41.5 (90.7%)
3~5月平均	17.5 (90.8%)	27.2 (98.1%)	44.7 (95.1%)



注: 網掛け、点線部分は予測値



注: 網掛け、点線部分は予測値

3 出回り量・期末在庫

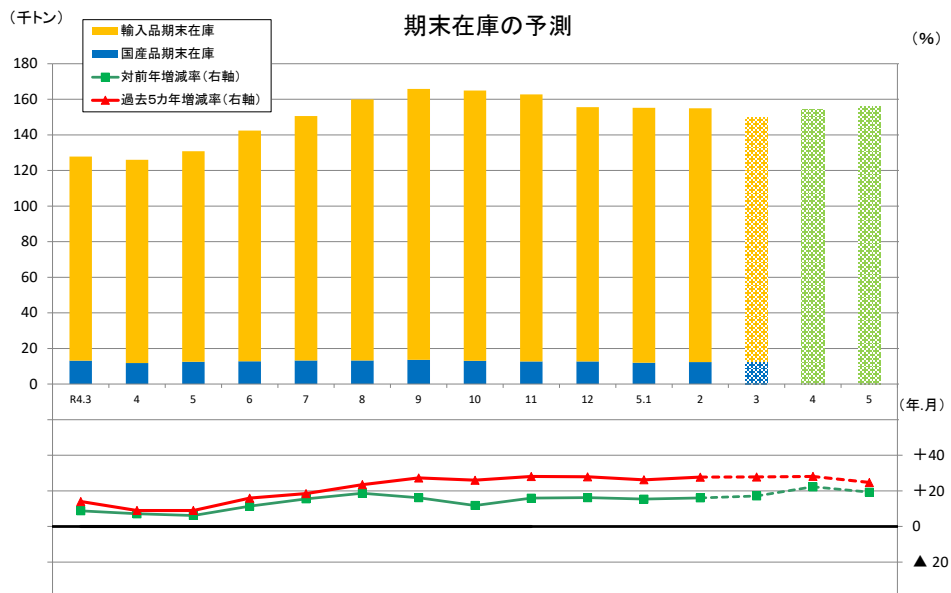
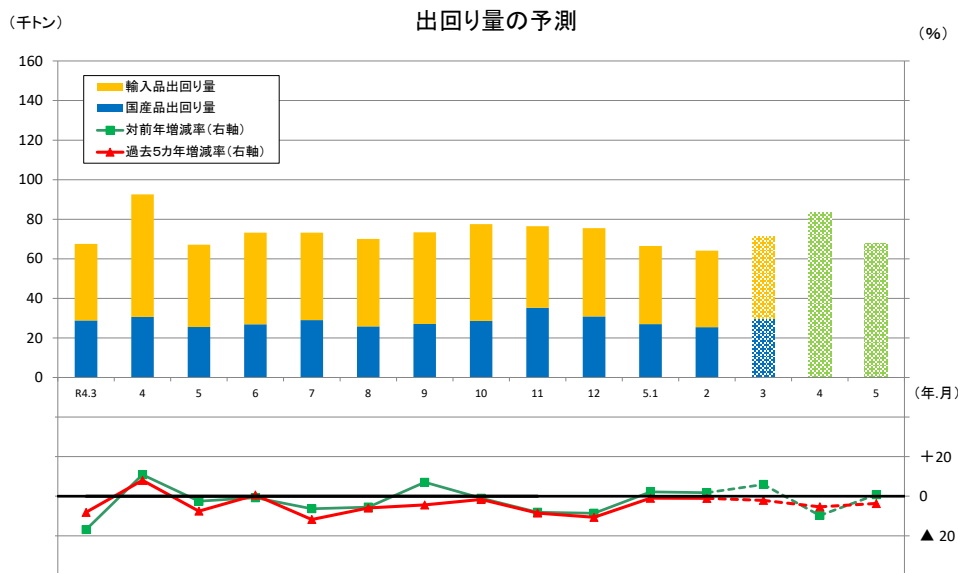
出回り量及び期末在庫の予測は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出した直近月の期末在庫及び前述の生産量、輸入量をもとに、計量経済学に基づく手法により算出している。

この結果、

- 出回り量は、4月は前年同月をかなりの程度下回る一方、5月は前年同月をわずかに上回ると予測する。
- 期末在庫は、4月、5月ともに、前年同月を大幅に上回ると予測する。なお、過去5カ年の同月平均との比較でも、4月、5月ともに大幅に上回る（4月：28.1%増、5月：24.7%増）と予測する。

(千トン)

	出回り量			期末在庫		
		うち輸入品	うち国産品	うち輸入品	うち国産品	
令和5年3月 (見込み)	71.5 (106.0%)	41.9 (108.3%)	29.7 (102.9%)	149.7 (117.1%)	137.1 (119.6%)	12.6 (95.6%)
4月 (予測)	83.6(90.3%)			154.1(122.3%)		
5月 (予測)	67.7(100.8%)			156.1(119.3%)		



<予測手法>

- 出荷頭数は、黒毛和種・乳用種雄牛・交雑種については、家畜改良センターの牛個体識別情報から、「月齢別・牛の種類・性別のと畜頭数」のデータを用いて、牛の種類の出荷月齢パターンを把握し、「牛の出生年月」をもとに予測。上記以外については、過去の月別出荷頭数の実績等をもとに予測。1日当たり出荷頭数ベースの前年同期比は、と畜場稼働日数を加味して算出。なお、必要に応じ、気候条件や家畜疾病の発生等を考慮し、補正を行う。
- 生産量は、牛の出荷予測頭数に過去の月別枝肉重量の実績をもとに算出した平均枝肉重量を乗じて部分肉換算率を70%として算出。
- 輸入量は、機構の実施している国内の主な輸入事業者で構成される輸入動向検討委員会において、各社の輸入数量見込みをもとに検討のうえ算出。
- 出回り量は、過去の月別出回り量の実績値をもとに、ARIMAモデル（計量経済学に基づく手法）を用いて予測。
- 期末在庫は、期首在庫に、上記手法で算出した当該月の生産量及び輸入量を加え、出回り量を控除して算出。なお、当月予測の期首在庫は、機構が実施している食肉等保管状況調査から算出している。また、食肉等保管状況調査の調査対象倉庫は、毎年度見直している。

お問合せ先

独立行政法人農畜産業振興機構
畜産振興部 畜産流通課
前田、大内田
TEL 03-3583-4302
FAX 03-3583-8714